

With コロナと私のESD活動

～コロナ禍の中で展開する環境体験学習・防災学習の最近の状況と課題について～

西谷 寛

海と空の約束プロジェクト

1. 問題意識

ワクチン接種が始まり日本国内でも1回目(60.0%)2回目(48.3%)(全人口に対する接種済率、9/7公表)となっている。しかし兵庫県でも感染者数は増加し、緊急事態宣言は継続している。家庭内感染や若者、子ども達の感染も増加し、活動を自粛したり禁止する団体も存在する。一方、兵庫県内の人口約5万人の都市で私が経験した事例で、兵庫県が緊急事態宣言発令したその日に小学1年生～5年生の約30人と40人の2グループの室内での環境体験学習を実施し指導したことがあった。夏休み中のアフタースクールで、市の教育委員会の指導管理下の団体であった。高齢者大学で室内の学習会で緊急事態宣言下で約40人の学習会で講演した経験もある。いずれも主催者の強い希望があつて対策もしっかりしていたので行った。

自分自身は毎日、17時頃に兵庫県、明石市、神戸市、大阪府、関西圏、関東圏の感染者の発生状況やクラスターの発生状況を毎日確認しながら1～2週間内の活動の延期か中止か実施かを検討したり、主催者や協働先に相談しながらできる活動を模索しながら進めている。

2. 現在の活動の進め方について

主催者からの依頼で講師を務める場合と自分が主催する場合で異なる。主催者のコロナ禍での意向を尊重して行うがあまりにもリスクが高いと考える場合は意向を伝えた上で検討する。

(1) 野外保全活動(クリーン作戦、観察会等)

- ① 河川、海岸の保全活動の20名程度までの少人数で行うものは、緊急事態宣言中でも健康管理、マスクと3密対策の徹底をしながら実施継続中。
- ② 実施場所の校区内でクラスターの発生や複数感性がある場合は中止とした。
- ③ 大人数の屋外活動は20人を超え大人数の活動や不特定多数の公募型の事業については中止か延期とした。大人数の活動でも学校の事業等で平常時から大人数で健康管理

とコロナ対策を行っている施設に招かれた場合は、事前に双方のコロナ対策と地域の状況を検討した上で実施した事例も多い。

(2) 会議や室内セミナーでの等屋内活動

人数に見合った十分広い会場(換気も確実)で行う場合で、学校園等日常から健康管理とコロナ対策が取られている場合は、実施したこともある。ただしプログラムに依って参加者の移動を伴う場合や不特定多数の公募型の事業などは健康管理が確認できないので緊急事態宣言中は延期にしている。

(3) その他の活動

コロナ禍で活動頻度は減少傾向であるが、新しい活動要請や実現した活動もあるので紹介する。

- ① 明石市内のライオンズクラブや明石市内の教会から例会での講演や市民対象の公募の海の保全活動の要請があつた。きっかけは、活動のホームページから私の活動を知って要請があつたもの。
- ② 全国組織の生活協同組合から海洋プラスチック対策と海岸での会員向けの学習会の要請があり実現した。コープこうべと2年前に行った記録を観て、コラボ団体から紹介されて実現に繋がった。
- ③ 他にもホームページや新聞、SNSから活動や絵本や紙芝居のことを知って問い合わせが入り活動に繋がったものも多数ある。まずは発信することが重要である。

3. 考察

- (1) コロナウイルス感染症は変異株もあり不
明点も多く確実な防止柵は難しい。ワクチンも検査薬も確実性はまだ不十分である。
- (2) 従って、緊急事態宣言発令中の活動は慎重
に行うことが必要で、緊急事態宣言解除後も情報と知見に基づいた対策を行った上で、対応しその評価を積み重ねることが重要である。慎重に活動しても感染することは起こりうることを認識しておくことが重要である。